

日本の食の安全特別コース

Progress 日本食の安全人材育成プログラムの現状と展望

ゼロ金利が続く日本社会ではあるが、世界経済はイノベーションを通じて成長している。成長は次の投資を促している。化石燃料から環境に優しい自然エネルギーや水を活用する社会になりガソリンスタンドが無くなり、電化した社会となる。街には電気充電スタンドが立ち並び社会への変革が起こる。鉛筆からワープロへと変貌し、コンピュータや携帯電話に移り変わった社会を我々は既に経験している。そのため、IT（IoT、ICT）やAIに精通した人材が求められている。新しい生活スタイルは、新しい人材を求めるこの変化こそが、経済を動かす要だ。食品分野では早くから東南アジアなどへの進出が進み、グローバルな人材が求められている。会社の上層部の改革は進んでないが、若者らはグローバル化した社会を生きていることになる。日本の食の安全プログラムは、今後もそのような食品産業界を支えるグローバル人材育成プログラムであり続けたい。ベトナム、インドネシアからの留学生は、自己鍛錬に貪欲で、採用を促すと食品産業界のグローバル化に貢献する学生がきつと出てくると確信している。一方で、日本式の縦割りの社会という価値観だけでは、グローバルな社会では勝ち抜けないだろう。むしろ将来は留学生を活用した横の連携の活用が求められるのではないだろうか。アジアの社会で役立つ人材を育成することが益々、香川大学の日本の食の安全プログラムに重要になるはずであり、企業の皆様には今後とも温かいご支援をお願いしたい。

（田村教授）

Topics 11期生・12期生のインターンシップ紹介

昨年のインターンシップは、新型コロナウイルス感染が拡大する状況下、学生達は企業訪問をしての実習ができず、香川大学附属農場でのインターンシップ研修を行うこととなりました。

今年度も各企業での研修受け入れが困難な状況が続く中、11期生、12期生ともに昨年同様、農学部附属農場でのインターンシップ研修を行いました。そんな中、現場での実習及び研修実施を株式会社安岐水産にお願したところ、感染防止対策を十分に行うという条件で対面にて受け入れて頂くことができました。その他オンラインでの研修をご提案していただいた企業もあり、7月に実施を予定しております。

今回の農場研修では昨年同様のテーマ「緑茶の経営について」の他に、12期生は、「馬鈴薯」「玉葱」の基礎知識、栽培、収穫、選別にもチャレンジさせて頂きました。

11期生は天候に恵まれた青空の下、茶葉の機械摘み作業と加工などを実習し、12期生は小雨の降る中「芋掘り」も体験するなど楽しく有意義な研修を行うことができました。

株式会社安岐水産では食品の生産における重要かつ必要なポイントにもいろいろ気づかされたようです。



11期生が機械摘み作業をする様子



12期生が馬鈴薯について学習する様子



12期生の安岐水産での実習時



馬鈴薯選別作業終了後

最後に今研修では、附属農場の諸限先生はじめ株式会社安岐水産の皆様は大変お世話になり、学生達は貴重な体験をすることができました。あらためて関係各位に感謝申し上げますとともに、様々な状況で行う本コースのインターンシップのあり方をこれからも模索していきたいと思えます。（樋口特命教授）

News 日本貿易振興機構（JETRO）の活動の紹介

企業の皆様は、海外に進出する局面では、大なり小なり日本貿易振興機構（JETRO）との関係を密にされることも多いのではないのでしょうか？

ジェトロでは、最近高度外国人材活躍推進ポータルサイトを立ち上げ、高度な知識や技能を有している人材を海外から来日中の172万人の外国人労働者に求め、企業とのマッチングを図る取り組みを始めている。高度な技能、知識を有する人材は、国境を越えた獲得競争が行われ、海外とのビジネスの拡大や、研究開発を通じたイノベーションの創発など、さまざまな分野での活躍が期待されている。日本政府もこのような人材交流の推進を歓迎していることがジェトロのサイトに紹介されている（左記QRコードより参照可）。高度人材の確保については、経済産業省と文部科学省の始めたアジア人財資金構想が先駆的であり、香川大学も食の安全に関しては、2009年から大学院教育の一環で参画し、現在も食の安全の専門教育の他、ビジネス教育を日本語で行うプログラムを実施している。そのため、我々の目指す方向とジェトロの求める人材が近いと考え、早速ジェトロ大阪の穴山様やジェトロ香川の大嶋所長代理に連絡を取り、情報交換を行っている。早々に、ジェトロ香川の石原孝志所長から、クリエアナブキの主催する香川県の外国人材の県内企業就業促進イベントへの案内を頂いている。皆様からもさまざまな情報がございましたら、ご一報をお願いしたい。

（田村教授）

詳しくは下記QRコードよりご覧いただけます。



高度外国人材とは



企業の方へ



Review 日本の食の安全特別コース第4期生より

コースを修了してから、ずっと調味料分野で働いています。日本のオタフクソース株式会社で製造、品質管理と商品開発の仕事を経験し、自身の都合で帰国しましたが、現在は、中国の食品会社の商品開発部に所属し、管理職をしています。このプログラムと日本の会社で積み重ねた経験があるからこそ、今までの成果につながったと思います。異国での生活は大変ですが、いつの日か役に立つと思います。そのため、小さなことであっても、嫌いなことであっても、ぜひ体験してください。そして、自分の好きな分野で働くことが大切だと思います。なぜなら、難しいことに直面しても、簡単にやめることはしないからです。皆様、人生で一番楽しい2年間を大切に楽しんでください。

4期生 施詒文（シ ザウン）（中国）



卒業後は日本食研ホールディングス株式会社に入社し、今年の1月より同社の台湾工場に転勤しました。現在は台湾食研の品質管理課に所属し、日本の本社で培った経験、ノウハウを台湾工場の現地スタッフに伝えながら、最終的には台湾食研の品質保証体制に浸透させる観点から、原料・製品検査、商品規格書の作成、トラブル対応、工場監査等、品質保証関連業務全般を担当しています。

日本の食の安全特別コースは食品関連の知識だけでなく、ビジネスマナーを始め、日本の食品会社で働くには不可欠な知識を多岐にわたる授業から学ぶことができます。特に日本事情という授業で習った日本の職場文化、ビジネスマナー、敬語の使い方等は日本の職場に馴染むことに大きな役割を果たしました。日系企業に就職する以上、どこの会社、どの職種に就いても敬語が必要ですので、今のうちに正しい使い方を身に付けておくことをお勧めします。



4期生 ウン フェイ シン（マレーシア）